

[花き部門]

4. ブルーレースフラワーの高発芽種子の選抜方法と出芽の改善方法

[要約]

ブルーレースフラワーの自家採取種子を無水エタノールに浸漬すると発芽率の高い種子が沈み、その種子を用いて 20～25℃、無覆土で催芽・育苗を行うと出芽率が高くなる。

[担当] 野菜・花研究室

[連絡先]電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

ブルーレースフラワーの自家採取種子は発芽率が低いことが問題となっている。そこで、発芽率の高い種子の選抜方法を確立し、育苗時の出芽率向上を目指す。

[成果の内容・特徴]

1. 無水エタノールに浸漬し、沈む種子の発芽率は、無処理種子に比べて高い（表 1）。
2. 10℃～30℃の範囲で発芽試験を行うと、20℃～25℃で発芽率が高い（図 1）。
3. 育苗土に播種した後、無覆土で催芽を行うと、覆土した場合に比べ出芽率が高い（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. エタノールの浸漬時間は 5 分以内であれば発芽率に影響はない。
2. エタノール浸漬による生育への影響は見られない。

[具体的データ]

表1 エタノール浸漬処理がブルーレスフラワーの播種後14日目の発芽率に及ぼす影響^z

エタノール浸漬処理 ^y	種子発芽率 ^x (%)
有	58
無	15 ** ^w

^z シャーレ（ろ紙2枚、水道水5ml添加）に播種し、20℃・全暗下のインキュベータ内で管理した。
^y 無水エタノールに種子を浸漬、攪拌後、3分間静置した。
^x 発根の見られた個体
^w **: 1%水準で有意 (t-検定)

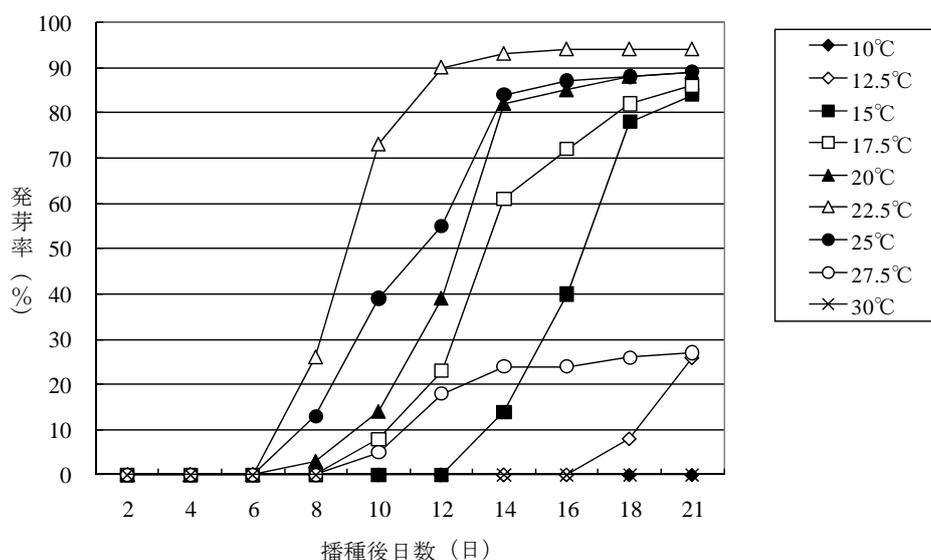


図1 ブルーレスフラワーの育苗時の温度と発芽率の関係
 注) シャーレ（ろ紙2枚・蒸留水4ml添加）に播種

表2 覆土の有無がブルーレスフラワー種子の播種後25日目までの出芽率に及ぼす影響^z

催芽時の覆土 ^y	出芽率 ^x (%)
有	24
無	75 * ^w

^z 与作N-150を充填したヤンマー200穴セルトレイに播種し、20℃・全暗下のインキュベータ内で10日間催芽処理した。処理終了後、加温開始温度15℃のビニルハウス内で管理した。
^y 覆土有区は播種直後から覆土した。無覆土区は催芽処理終了時点（全体の7割程度で発根）で覆土した。
^x 播種後25日目時点で双葉が完全に展葉した個体
^w 5%水準で有意 (t-検定)

[その他]

研究課題名：ブランド化を目指した特産花きの品種選抜と栽培法の改善

予算区分：県単

研究期間：2008～2010年度

研究担当者：中島拓、綱島健司